

北陸総合通信局講演会「5GやDXが経済や社会にもたらす変革」を開催 ～すべての人が現場のデジタル化に気付ける「デジタル社会人材」に～

総務省北陸総合通信局は12月19日、北陸情報通信協議会、北陸経済連合会との共催で「北陸総合通信局講演会」を金沢市の石川県文教会館で開催しました。東京大学大学院工学系研究科の森川博之教授が、「5GやDXが経済や社会にもたらす変革～気づきと共感がデジタル経営の鍵～」との演題で講演しました。雪にも関わらず、デジタル化に関心のある産官学のリーダーや実務者を中心に170人が参加しました。

冒頭、モデレーターを務めた小津敦北陸総合通信局長より、簡単な講師紹介とともに、情報通信は今やあらゆる産業の基礎インフラであり、力強く経済全体を牽引することが期待されるため、この講演会には各産業の産官学の方々に広く声をかけたとの説明がありました。

引き続き、北陸情報通信協議会及び北陸経済連合会の会長を務める金井豊氏（北陸電力会長）より、この講演会を通じて、各産業でのデジタルの導入が北陸経済全体に波及するとともに拡大し、結果として、豊かな地域社会を実現することを望むとの挨拶がありました。

講演で森川氏は、「これをすればDX（デジタル変革）できるといった正解はなく、変わり続ける社会の中で各個人がそれぞれの立場で当事者意識を持って考えることが重要」と強調しました。

また、「デジタル導入による生産性向上のヒントは現場にこそあり、それに気づこうとする努力が必要で、デジタル技術の専門知識を備えたデジタル人材よりは、それぞれの現場で自ら問題を発見し、企画し、行動する『デジタル社会人材』の育成が急務」と呼びかけました。

さらに、「日本の生産性は先進国の中で低いのが、伸びしろはむしろチャンスであり、デジタル化を隅々まで展開することで次の世代に良い社会を残すべき」と述べ、人口減少対策としてもデジタル化が有用との指摘がありました。

最後の質疑応答では、地方が抱える課題に対する助言を求めるなど、活発な質問が相次ぎました。



講師を務めた森川教授



主催者挨拶した金井会長



モデレーターの小津局長



感染症対策として座席間隔を取った講演会会場